

【授業科目】一般検査学

| 担当教員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|------------------------|--|------|-----|------|------|---------|-----------|
| 小菅 優子 | 1年次後期 | 必修 | 2 | 30 | 講義 | 卷末掲載 | 可 |
| 授業概要 (内容と進め方) | <p>授業概要／一般検査の依頼頻度が高い尿検査を中心に便潜血検査、脳脊髄液検査について学習する。検査項目における検体採取の諸注意や保存法、検査方法の原理や操作方法を理解し、検査項目の病態をまとめる。また、スクリーニング検査の重要性を学習する。具体的に、検体の取扱いや保存法、尿の一般的性状、糖、蛋白、ケトン体、潜血、ビリルビンなどの性状や検査法、尿沈渣の標本作成法、鏡検法、染色法や得られた沈渣の判別、糞便検査、脳脊髄の性状、採取法、基準範囲、細胞学的検査及び化学的検査の他、喀痰検査、穿刺液検査などの各検査について学習する。講義形式で、教科書を使用しながら適宜プリントを配布して行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する。</p> | | | | | | |
| 授業の位置づけ | <p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p> | | | | | | |
| 到達目標 (履修者が到達すべき目標) | <p>①各検査項目の一般的性状について説明できる。 ②検体採取及び検体取扱い法がわかる。 ③一般検査項目の基準値を列記できる。 ④一般検査項目の臨床的意義が説明できる。</p> | | | | | | |
| 時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言 | <p>第1～15回事前学習：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～15回事後学習：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 ＊その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p> | | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回 総論：検体取扱い、保存法 第2回 尿一般的性状1：尿の生成、尿量、色調 第3回 尿一般的性状2：混濁、比重、浸透圧 第4回 尿化学的検査1：糖、蛋白の性状、検査法 第5回 尿化学的検査2：ケトン体、潜血の性状、検査法 第6回 尿化学的検査3：ウロビリニン体、ビリルビンの性状、検査法 第7回 尿化学的検査4：その他の尿成分 第8回 尿沈渣1：標本作成法、鏡検法、染色法 第9回 尿沈渣2：細胞成分 第10回 尿沈渣3：円柱、結晶 第11回 糞便検査：潜血検査、脂肪便検査 第12回 脳脊髄検査1：性状、採取法、基準範囲 第13回 脳脊髄検査2：細胞学的検査及び科学的検査 第14回 喀痰検査、胃液検査、十二指腸検査 第15回 穿刺液検査、精液検査、COPD 廃液検査</p> | | | | | | 全て 小菅 |
| 評価方法 評価基準 | 講義ごとのレポート30%、定期試験70% | | | | | | |
| 教科書 | 最新臨床検査学講座 一般検査学（医歯薬出版株式会社） | | | 参考書等 | なし | | |
| 学生へのメッセージ | 臨床検査の現場で重要となる部分を占める内容です。疾患との関わりが十分理解できるよう、積極的に講義に取り組んでください。 | | | | | | |